

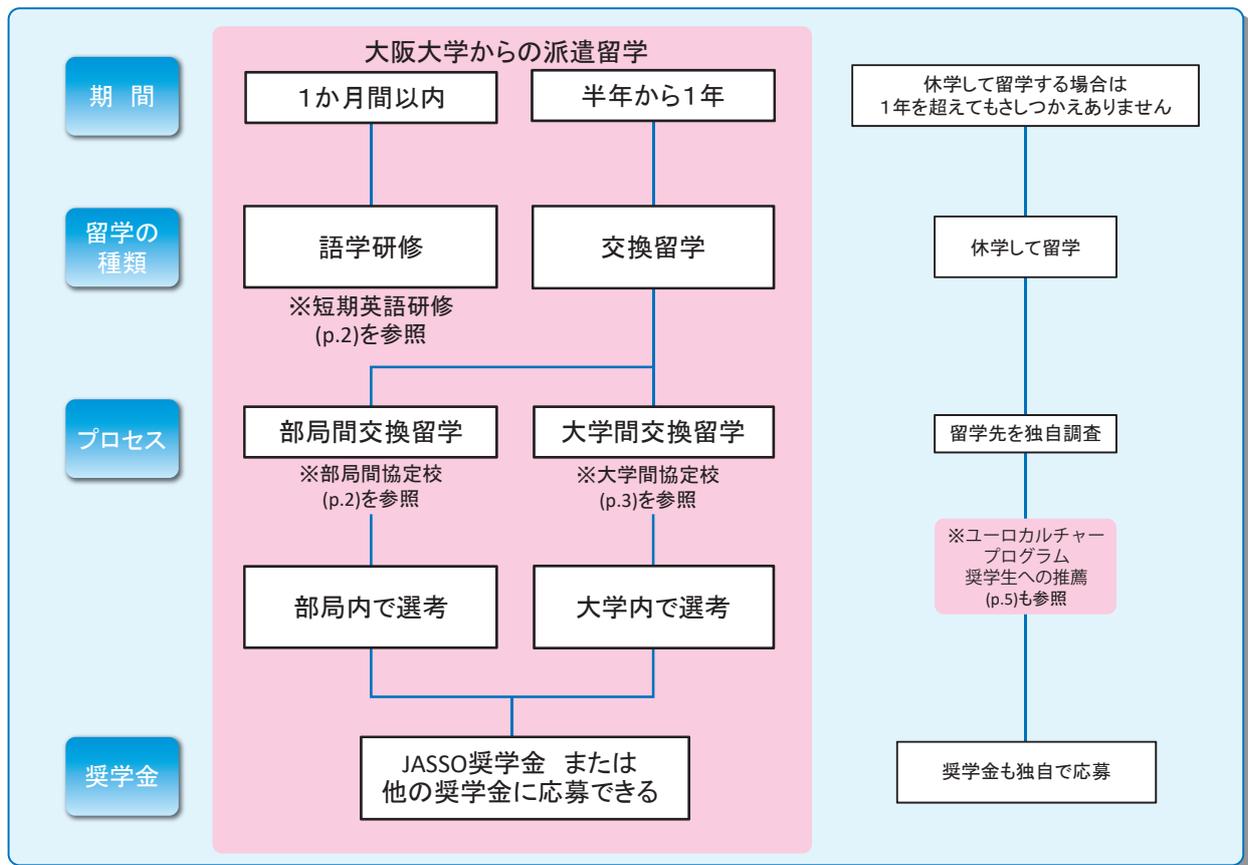


## 留学のチャンスを活用しましょう！

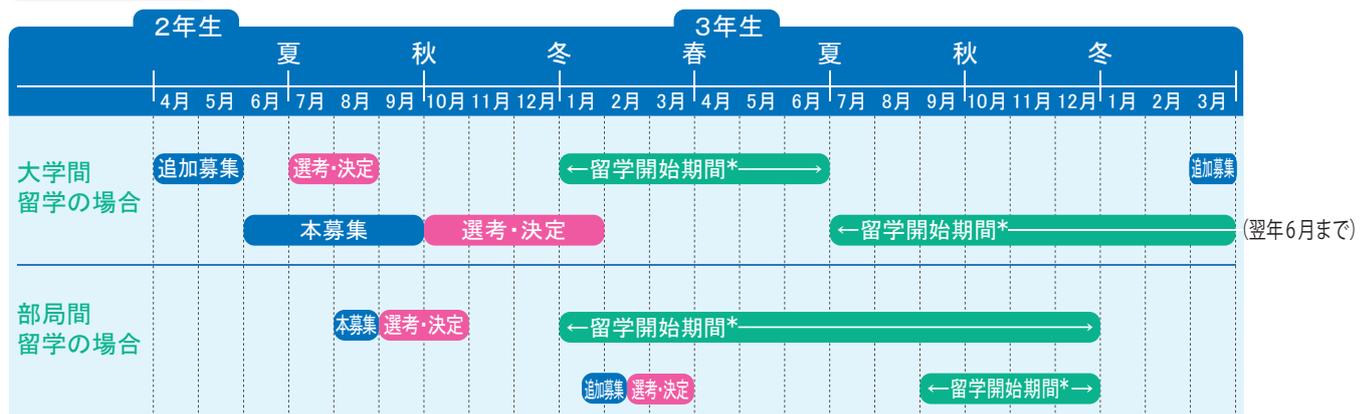
大阪大学では学部生・大学院生の海外留学を推奨しています。

このパンフレット掲載の情報は、[文学部のホームページ](#)でもご確認いただけます。

文学部 HP » 国際交流 » 広報・記録 <http://www.let.osaka-u.ac.jp/ja/international>



### タイムライン



\*留学開始時期は受入大学の学期開始時期による

## A. 留学情報 役に立つ説明会が実施されています

- ★「海外留学オリエンテーション」（国際学生交流課主催）4月末に開催。  
語学研修、国際交流科目などについての説明があります。
- ★「大学間交換留学オリエンテーション」（国際学生交流課主催）6月から7月にかけて開催。  
交換留学（大学派遣）についての説明があります。
- ★「人文学研究科（旧文学研究科）・文学部 留学説明会」5月開催。  
人文学研究科（旧文学研究科）・文学部の交換留学、語学研修の体験談、留学の応募から出発前の準備の様子などを紹介します。  
☆パンフレット「海外留学にチャレンジしてみよう！」 阪大生のための「海外留学ガイドブック」  
[http://www.osaka-u.ac.jp/ja/international/outbound/ex\\_students.html](http://www.osaka-u.ac.jp/ja/international/outbound/ex_students.html)

## 留学の種類と語学研修

- ★短期英語研修 [数週間程度] 夏休みや春休みに英語研修が実施されています。

プログラム名	募集時期（2024年度情報）*	実施時期（2024年度情報）*
ハワイ大学マノア校 夏季語学研修プログラム*	4月上旬～5月上旬	8月中旬～9月中旬（5週間）
エンデランカレッジ夏季 語学研修プログラム*（オンライン）	4月上旬～5月上旬	8月中旬～9月上旬（3週間）
エンデランカレッジ春季 語学研修プログラム*（オンライン）	11月上旬～下旬	2月下旬～3月上旬（3週間）

\*「国際交流科目」として単位修得できるプログラム ☆募集情報は大阪大学のHP、KOANでご確認ください。

※ 最新の情報は大学HPを参照、[https://www.osaka-u.ac.jp/ja/international/outbound/ex\\_students.html](https://www.osaka-u.ac.jp/ja/international/outbound/ex_students.html)

- ★交換留学 交流協定校へ1学期以上、1年未満の期間での留学

- ✓ 交換留学制度を利用する場合、大阪大学を休学することはできません。「留学」という身分になります。
- ✓ 留学中は大阪大学の学費を本学に納入します。多くの場合、留学先大学へ授業料を支払う必要はありません。
- ✓ 留学先で取得した単位は、所定の手続きを経て大阪大学で取得した単位として認められることがあります。
- ✓ 応募するには TOEFL iBT79 又は IELTS（アカデミック・モジュール）6.0 以上の英語力が必要です。  
語学基準は留学先大学によって異なります。

◆人文学研究科（旧文学研究科）・文学部の学生が海外留学のために利用できる交流協定には下記の2種類があります。

### 1. 交換留学（部局間協定）人文学研究科（旧文学研究科）・文学部は以下の大学と学生交流協定を結んでいます。

- ★ マークが付いている協定校の場合、教務係へ応募願書を提出する前に国際連携室へ要相談！

イギリス	イーストアングリア大学	
イタリア	ウーディネ大学	法学部
ポーランド	ヤギェロン大学	国際政策学部
スウェーデン	ウプサラ大学（*修士・博士前期のみ）	神学部
チェコ	オロモウツ パラツキー大学*	文学部
	プラハ・カレル大学	文学部
ドイツ	ハイデルベルク大学	日本学研究所
	ゲッティンゲン大学	社会科学部
フランス	パリ・シテ大学	
中国	上海戯劇学院 *院生のみ	
	西北大学	文化遺産学院
韓国	韓国芸術総合学校	演劇院
台湾	国立台湾師範大学	文学院
		国際与社会科学学院

交換留学（部局間）の募集・選考予定は以下の通りです。

募集	8月（本募集）	1月～2月（追加募集）*
選考	9月上旬	2月～3月
留学開始	翌年1月～12月	9月～12月

\* 大学によっては募集枠のない場合があります。

## 2. 交換留学（大学間協定）

大阪大学は世界各地の約136大学と交流協定を結んでいます。（2025年2月1日現在）  
大学HP参照 <https://www.osaka-u.ac.jp/ja/international/action/exchange>（）

募集締切	3～5月頃（追加募集）	9月頃（本募集）
学内選考・面接	7～8月	10～11月
学内選考結果通知	8月頃	12月下旬頃
留学開始	翌年1月～6月	翌年7月～翌々年6月

※スケジュールは変更される可能性があります。

[https://www.osaka-u.ac.jp/ja/international/outbound/ex\\_students.html](https://www.osaka-u.ac.jp/ja/international/outbound/ex_students.html)

## バーチャル交換留学プログラム

### バーチャル留学について

大阪大学ではポストコロナの状況を展望し、海外の大学等からオンラインで提供されるプログラムを学生が履修する場合、一定の条件を満たす者\*に対して単位を付与し、また「留学」として認定します。

\*一定の条件を満たす者とは、以下の通りです。

- ① 「グローバル人材育成研修」（国際交流科目 / グローバルイニシアティブセンター科目群）の単位修得者及び同等の活動を行った者
- ② 全15コマ中8コマ以上の講義が、海外の大学や研究機関所属のゲストスピーカーにより日本語以外の言語で提供される科目の単位修得者
- ③ 本学が海外大学等に委託して実施するオンライン短期語学研修又は協定校などの海外大学が提供するオンライン短期語学研修に参加し、当該プログラムを修了<sup>(注)</sup>した学部生及び大学院生（本学による単位認定の有無は問わない）
- ④ 協定校などの海外大学の正課講義を、受講登録したうえで公式にオンライン受講した学部生及び大学院生（本学による単位認定の有無は問わない）

(注)：海外大学等が公式に発行する transcript（成績証明書）により修了が確認できるものであること  
以下に一例を紹介いたします。詳しくは国際連携室まで、お問い合わせください。

### ★ APRU Virtual Student Exchange Program (VSE)

VSEはARRU（Association of Pacific Rim Universities（環太平洋大学協会））加盟大学が提供する授業科目から構成されるオンラインプログラムです。詳細は、以下ウェブサイトを確認してください。

- ✓ VSE ウェブサイト <http://vse.apru.org/>
- ✓ VSE ウェブサイト Application <http://vse.apru.org/application/>
- ✓ VSE ウェブサイト授業科目一覧 <https://vse.apru.org/s22324/>  
(申請期限は大学毎に異なります。詳細は、VSE ウェブサイト授業科目一覧をご覧ください。)
- ✓ Co-curricular programs <https://vse.apru.org/co-curricular-programs/>

### ☆対象者

本学に在籍する学部学生

### ☆申請方法

申請は、VSE ウェブサイトで行います。詳細は「VSE ウェブサイト Application」を確認ください。以下は手順の概要です。

- ① VSE ウェブサイト上で申請項目の入力
- ② 成績証明書や必要に応じて言語能力証明書等をアップロードし申請を完了させる（登録完了後、国際部国際企画課国際交流係（email: intl-collab@office.osaka-u.ac.jp）へメールで申請した旨の連絡をする）
- ③ 国際部国際企画課国際交流係による学籍状況等の確認
- ④ 提供大学による審査

★①～④の手続き後、VSE オフィスから結果メールが届き、受講が認められた場合は提供大学から登録方法等について案内があります。

※ APRU は、環太平洋地域を代表する大学の学長で構成される組織で、各国の高等教育の相互協力関係を強め、環太平洋地域社会にとって重要な諸問題（例えば経済発展、都市化、技術移転、大気汚染、資源枯渇等）に対し、教育・研究の分野から協力・貢献することを目的として1997年に設立されました。現在は、環太平洋地域から61大学（2025年2月時点）が加盟しており、各大学にてワークショップ、シンポジウム、国際会議等の様々なプログラムを実施しています。大阪大学は設立当初からメンバーとして加盟しており、各種イベントに学生及び研究者を派遣しています。

※ 登録費用：必要な登録料等は一部支給します。詳細は国際連携室まで、お問い合わせください。

## B. 奨学金情報 (2024 年度実績)

(奨学金の募集条件等は変更される可能性があります。2025 年度に募集される奨学金情報は、順次、大学のホームページ、KOAN 等で案内されます。)

大阪大学 HP » 国際交流・留学 » 大阪大学から海外留学したい方 » 留学助成制度  
<https://www.osaka-u.ac.jp/ja/international/outbound/scholarship>

### 1. 独立行政法人日本学生支援機構 (JASSO) 実施の奨学金

給付型・・・応募要件等を確認のうえ、人文学研究科 (旧文学研究科)・文学部研究科豊中事務部の教務係に応募書類を提出してください。

協定派遣	学部・大学院の正規生 (外国人留学生を除く) 3 ヶ月以上 12 ヶ月以内の交換留学	月額 10・8・7・6 万円 月額支給額は地域により異なる
大学院学位 取得型	以下の全てを満たす者 (外国人留学生を除く) ①申請時に本学学部・大学院に在学する正規生 又は最終学位を本学正規課程で取得した者 ② JASSO が定める「応募者の要件」を満たす者	月額 150,000 円～ 350,000 円 (地域により異なる) 授業料 (支給なし (予定))

詳細はホームページ (<https://ryugaku.jasso.go.jp/scholarship/>) をご覧ください。

### 2. 大阪大学の奨学金 未来基金グローバル化推進事業

応募要件等を確認のうえ、人文学研究科 (旧文学研究科)・文学部教務係に応募書類を提出してください。

交換留学奨学金 (派遣)	学部・博士前期課程の正規生 交換留学 (3 か月以上 1 年未満)	月額 5 万円
研究留学助成金	大学院生 (正規生) 研究留学 (3 ヶ月間以上 10 ヶ月間程度)	往復渡航費: アジア地域 10 万円、その他地域 20 万円 奨学金: 月額 10・8・7・6 万円 (留学先による)
住友化学グローバルリーダー 育成奨学金	学部・大学院生 (正規生) 留学 (3 ヶ月間以上)	留学期間 6 か月未満: 60/80 万 留学期間 6 か月以上: 90/120 万

### 3. 文学部の奨学金 教育ゆめ基金

交換留学する**文学部学生**を対象とした奨学金です。1 年に 2 回 (6 月と 1 月) 募集します。

文学部 HP » 国際交流 » 海外留学・研修 » 交換留学 (部局間) について » 「4. 教育ゆめ基金」  
<http://www.let.osaka-u.ac.jp/ja/international/exchange/inter-faculty>

### 4. その他の奨学金

\* 日本学生支援機構「海外留学の奨学金」[http://ryugaku.jasso.go.jp/scholarship/scholarship\\_other/](http://ryugaku.jasso.go.jp/scholarship/scholarship_other/)

\* 「官民協働海外留学支援制度～トビタテ! 留学 JAPAN 新・日本代表プログラム～」

対象: 学部・大学院に在籍する正規生 28 日以上 1 年以内 (3 か月以上推奨) 留学する者

支給額: 月額 6 ～ 16 万円 (経済状況や留学先地域による) ※支援額は変更する場合があります。

## C. 外国語による授業

[http://www.osaka-u.ac.jp/ja/international/inbound/exchange\\_program/eng\\_course](http://www.osaka-u.ac.jp/ja/international/inbound/exchange_program/eng_course) (英語開講授業リスト)

### 1. 全学共通教育科目の外国語による授業

### 2. 国際交流科目 全学の先生方が、その専門に応じて英語による講義を提供しています。

### 3. 外国語による発信力を育成するための科目

“Basic Academic Skills for Humanities” “Introduction to Contemporary Japanese Studies” などの外国語によるアカデミックスキルを育成する授業を開講しています。

### 4. エラスムス・ムンドゥス英語授業 "Contemporary Japan in the Global Context"

10 月から 12 月に開講されます。(修士課程以上)

## D. 語学能力について

英語の場合 各大学の必要要件を調べましょう。セクションごとに足切り点がある場合もあります。

- ・ TOEFL アメリカやカナダなど北米の大学に応募する場合一般的に用いられます。試験はコンピューターで4技能(リスニング、リーディング、ライティング、スピーキング)を測定する試験です。
- ・ IELTS イギリスやヨーロッパ、オセアニア、アジア圏などで一般的に用いられます。特にイギリスの場合は、IELTS UKVIの指定がある場合もあるので確認しましょう。また、学生ビザ申請のための足切り点もあります。筆記試験と、スピーキングの面接があります。

**国際連携室に試験対策用の参考書がありますのでご利用ください。貸し出しもできます。**

英語以外の外国語の場合

当該外国語の語学能力試験のスコアの提出、もしくは大阪大学で行われている当該ネイティブ講師による語学能力を証明する文書の提出によって判断します。大学間では、交換留学応募時に公式の語学能力証明書が求められることがあります。

## E. 外国語（英語）能力向上への支援

文学部・人文学研究科でグローバル人材育成の目的で、言語能力及び国際的な場で発言できる訓練のために以下のようなプログラムを提供しています。

### 1) 国際セミナーの開催及びプロシーディングの刊行

文学部・人文学研究科で学ぶ学生が国際的な場で自信を持って英語で発言し、議論を行うための訓練の場として、国際セミナーを開催しています。このセミナーでは、当学部・研究科の日本人学生や留学生だけではなく、海外の大学の学生や教育者も参加できるようにし、口頭発表のみならず、質疑応答・教育研究者コメント等も英語で行います。また、海外からの参加者と自由に意見交換や議論が行える環境を提供します。発表者全員に発表内容を英語で論文化してもらい、セミナー開催の詳細報告と合わせたプロシーディング (ISBNも付与) を刊行しています。

文学部・人文学研究科の学生の口頭発表の準備にあたって、国際連携室では英語の発表方法等について指導・助言、また、英文校正のための特別支援も実施しています。当セミナーは、文学部学生の海外の教育研究者・学生との交流だけではなく、語学研修への足がかりにもなります。

<https://www.let.osaka-u.ac.jp/ja/international/news>

### 2) グローバル人文学推進のための英語集中講座

「教育研究の国際的通用性・国際的発信力」(向上)を実現するため、学部生・大学院生を対象とした英語集中講座 (IELTS等) を実施しています。二つのレベルを設定して二講座 (中級/中上級など) を設定しています。学外からネイティブの講師 (ブリティッシュ・カウンシルなどから) を招き、授業をしてもらいます。受講料はかかりません。

<https://www.let.osaka-u.ac.jp/ja/international/exchange/academicwriting>

### 3) 英語能力判定試験 (IELTS、TOEFL) 受験料補助

2023年度から開始した制度です。文学部・人文学研究科(人文学専攻・日本学専攻基盤日本学コース・芸術学専攻)の正規課程の学生の留学準備への支援として、英語能力判定試験 (IELTS、TOEFL) の受験料を一部補助しています。

## ★正規留学 学位取得を目指し、国外の大学や研究機関へ留学

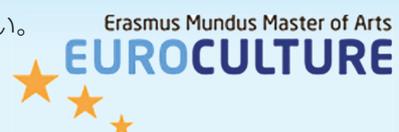
### ▼エラスムス・ムンドゥス修士課程への留学 ユーロカルチャープログラム奨学生への推薦

EUが運営するErasmus Mundusプログラムのひとつに、ユーロカルチャー (Euroculture) があります。豊富なカリキュラムを通じ、現代ヨーロッパの文化・社会・政治についてEU圏内の大学で多角的に学べるプログラムです。

大阪大学人文学研究科は同プログラムのパートナー校として、大阪大学の卒業生と大学院生の中から毎年若干名を推薦しています。2年間、EU圏内の以下の8大学のうち2校へ留学でき、修了後はその2校から修士号が得られます。詳細は[文学部の関連ページ](#)(HP » 国際交流 » Erasmus Mundus)をご覧ください。コンソーシアム参加校：グローニンゲン大学 (オランダ)、ゲッティンゲン大学 (ドイツ)、ウプサラ大学 (スウェーデン) ヤゲロニアン大学 (ポーランド)、パラツキー大学 (チェコ)、デウスト大学 (スペイン)、ウーディネ大学 (イタリア)、ストラスブール大学 (フランス)

毎年10月に説明会を実施していますので興味のある方はご参加下さい。

11月に学内選考を行い奨学生候補を選出しています。





## 留学体験記

### 夢の留学で新たに見えた景色

西洋史学専修 学部4年生 吉田奈穂

アメリカ ナザレスカレッジローチェスター校 (大学間派遣、派遣時学部3年生)

中学生の頃から「大学では1年間の海外留学をしたい」と思っていたので、アメリカで勉強できたこの1年間は、まさに夢が叶った最高の時間だった。私が行ったナザレスカレッジローチェスター校は、ニューヨーク州にありながら自由の女神やマンハッタンなどいわゆる“ニューヨーク”ではなく、遊びに行けるのは近くのモールしかない田舎の町にあり、小規模の大学で大半の学生が学内の寮に住むので、その分現地の友人や教授、他国からの留学生と「濃い」時間を過ごせた。毎晩遅くまで、友人たちと一緒に勉強し、語り合い、遊んだ思い出は宝物になっている。学問の面でも、歴史がアメリカではどのように解釈され語られているのかといったことや歴史的な人種問題について学ぶことができ、西洋史学専修として自分の研究に有意義なことを沢山学べた1年間だった。しかしこの留学で得た最も財産になることは、より積極的に学ぶ姿勢だと思っている。小学校から大学受験を経て大阪大学で学ぶに至るまで、一生懸命勉強していたつもりではいたが、今振り返ってみると与えられたものをどこか自分とは関係のない遠い世界の出来事のような感覚で、ただなぞるように学んでいた。それに対し、アメリカの学生たちは授業や時事問題のトピックを身

に迫る自分事として主体的に学び、そこから自分の主張をしっかりと形成して外に発信するということをしていた。

意識の高い周りの学生たちに刺激を貰い、私も時事や政治・経済を自分事と捉えて詳しく勉強するようになり、授業では3回発言をすることを目標に授業に取り組んだ。大学卒業後は民間企業に就職する予定だが、この留学を経てもっとアメリカで勉強したいという目標ができたため、アメリカでの大学院進学も視野に入れて今後のキャリアを考えていきたいと思っている。



休暇中に訪れたボストンにて

### 21世紀イギリスに住む—多文化共生とは

西洋史専修 学部4年生 上野一志

イギリス マンチェスター大学 (部局間派遣、派遣時学部3年生)

イギリスへの途上で香港に降り立った。その街の通りすべてに英語名があった。1時間しか離れていない中国本土と異なり、英領時代から車は左側を走っていた。香港だけでなく、欧米列強の植民地主義の痕跡が、経済格差と言語や文化を通して世界中を覆っている。

その影響はなにも植民地にとどまらない。宗主国であるイギリスにもその影響が残る。香港から14時間のフライトを終えて、ヒースロー空港に降り立ってから“アングロ・サクソン”のイギリス人に遭遇するまで、どれだけの時間を要しただろうか？

20世紀後半を通じた脱植民地化の波は、ジェントルマン文化も、上流階級の英語も嘲笑の対象にしてしまった。そしてなによりイギリス王室は白人性を体現する存在ではなくなった。

マンチェスターの街を歩いてみよう。大学のそばの中東やアフリカ系の移民街では、世界一美味しいケバブが食べられるし、中華街に行けば中華系移民だけでなく、街中が春節を祝っている。クリスマスマーケットは、多国籍な屋台が並び、「伝統的な」マーケットではない。しかしこれがマンチェスターの伝統なのだ。多文化共生とは「郷に入れ

ば、郷に従え」ということではない、それがマンチェスターとイギリス社会の答えだ。

マンチェスター大学では、そんな社会と歴史を反映した授業を多く受講した。イギリス社会と帝国はどう結びついてきたのか？という現代イギリス人なりの21世紀の人文科学なのだろう。1948年に西カリブ諸島から1027人の黒人労働者が、イギリスに着いたときから、イギリスはわたしたちの頭の中に描く社会ではない。

2024年、保守党党首は“イギリス”人からインド系、そしてナイジェリア系女性にバトンタッチした。労働党スターマン政権は、人種差別的な極右集団の暴動に対して、強い声明をもって反対した。そしてかつての帝国の中心、シティの金融街を今日歩くビジネスマンは、半数近くが“有色人種”であることだろう。そして今日も新たな香港人が、故郷の政治的苦難から逃れて、ヒースロー空港に降り立っている。

「純粋な」イギリス文化やイギリス人など、今日あの島には存在しない。そんな環境は、日本社会に生きる我々には奇妙に映ることだろう。マンチェスターに住んでみよう。あなたの知らないイギリスが、そこで待っている。



英中関係研究の大家、Prof. Robert Bickersと小雨の降るブリistolにて

## ドイツでの留学生活

西洋史学専修 学部4年生 太田 紫

ドイツ ハイデルベルク大学 (部局間派遣、派遣時学部3年生)

入学前から留学に興味があった私は、ドイツ史を勉強していることもあって、ドイツへの留学を選んだ。ハイデルベルクは、日本のみならず、さまざまな国から学生が集う国際色豊かな街であり、彼らとの交流は、日本での常識が他国では普通でないことに気づく貴重な機会であった。

学期中は、歴史学の授業と留学生向けの授業を受講した。歴史学の授業では、講義の場合、期末試験によって、演習の場合は、プレゼンテーションとレポート執筆によって評価された。授業では、学生たちが教授と積極的に議論する姿が印象的であった。複数人の会話を理解し、議論に参加するのは難しく、ドイツ語だけでなく、歴史学の理解の至らなさも痛感した。

留学生向けの授業には、語学コースと歴史や哲学などの専門にわかれた授業がある。比較的易しいドイツ語で行われるため、普通の授業の理解の助けにもなる。また、留学生との交友関係を広げやすい場でもある。学期中は、予習や復習に追われた日々を過ごしていたが、長期休暇中は、ドイツ内外を旅行した。絵画鑑賞が趣味であるため、各都市で有名な美術館を訪問することが旅行の目的の一つであった。ところが、外国への旅行で特に印象に残った国は、ポーランドである。入学当初、ナチスについて研究したいと思っていたため、アウシュヴィッツ博物館をぜひ訪ねたいと思い、

日本人の専任ガイドを予約した。教科書で何度も見てきた景色だが、実際に訪問した時に感じる重々しい雰囲気には言葉を失った。観光客だけでなく、追悼のために訪れた正統派のユダヤ教徒、ナチスの蛮行を勉強しに来たドイツの子どもたち、イスラエルの国旗を背負いながらガイドの話を聞くユダヤ人が居合わせており、さまざまな形の負の歴史の継承を見ることができた。

留学は楽しい事ばかりではなく、むしろ辛いことも多いが、異国の地での生活から得られる体験は唯一無二である。交換留学制度は、双方の大学のサポートがあるので、恐れず挑戦してほしい。



ミュンヘンのクリスマスマーケットにて

## Personal Experience of Studying at Osaka University

哲学哲学史 博士後期課程2年 Hong Yang  
中国出身留学生

My name is Hong Yang. I am a doctoral student majoring in philosophy and the history of philosophy. This year marks my fifth year of studying at Osaka University, since I came here as a Research Student in 2019.

My study life did not start off smoothly. It took me a long time to adapt and keep up with the pace, both in terms of language and professional knowledge. Almost everyone in the research group worked very hard. And every semester there was at least one opportunity to share the research result at the seminar, which was both pressure and excitement for me. On one hand, I was not confident whether I could conduct research using a foreign language. On the other hand, whenever I learned something new through other's presentations and the intense debates, I felt like my world view fundamentally changed, which made me marvel at the wonders of philosophy and encouraged me to persist. To this day, I am still inspired and moved when acquiring new knowledge. The years of studying at Osaka University have become an opportunity for me to reflect on what I want and learn to be honest with myself.

Of course, no one can do research alone. People around have provided me with great help in academic and personal life. My fellow students and I discuss our research topics together, and we also occasionally have dinner, drinks, talk about sports events or political news. My advisor is a humorous and open-minded professor. He is always there to help when we need assistance or advice. Despite my limited Japanese proficiency, often finding it difficult to express myself accurately, everyone is patient and encourages me to voice my opinions. I am sincerely grateful for these kind and enthusiastic people.

My academic life also benefits from the

convenient facilities and the pleasant environment at Osaka University. The library here has a rich collection. The delicious food offered by multiple cafeterias and convenience stores on campus can support a whole day of studying and researching. The campus is adorned with a variety of flowers, plants, and trees that create different landscapes in different seasons. The cherry blossoms all over the campus bloom with the start of the new semester in spring. In autumn, golden leaves dance over the ponds and courtyard.

Overall, I enjoy my study life at Osaka University. I hope that everyone who considers coming here will be pleased with the academic atmosphere and enjoy exploring more possibilities of their life.

Overall, I recommend pursuing their studies at Osaka University to people who have a plan on how to utilize a degree from a top-ranking Japanese institution, appreciate high academic quality, are willing to invest in building social relationships and are ideally fully funded.



Climbing mountain in Kyoto

編集・発行 人文学研究科・文学部 国際連携室  
橋本順光・モハンマド モインウッディン・廣澤沙紀  
発行日 2025年3月31日

〒560-8532 豊中市待兼山町1-5